地域間データ転送速く

機器設定 自動切り替え

ＫＤＤＩ研究所など

ＫＤＤＩ研究所と富士通、慶応義塾大学などは20日、地域ごとに管理者が異なるネットワークを一括管理し、設定を自動的に切り替える実証実験に成功したと発表した。切り替えに人手がいらないので大容量のデータを地域間ですばやくやり取りでき、障害時にも迅速に対応できるとみられる。3～4年後に実用化につなげたい考えだ。

国によって道路の交通ルールや構造が異なるように、ネットワークも地域ごとに管理者が違うことが多く、機器の仕様や規則も異なっている。

複数のデータセンター間や企業の本社と工場間など、地域を越えて大容量のデータをやり取りするには、経路上のネットワーク管理者同士で事前に調整して設定を変える必要があった。

調整に数日かかる場合もあり、ネットワークに障害が発生した時に対応が遅れる原因にもなっていた。

研究チームは、異なるネットワークを共通の命令文を使って一元で管理し、事前の設定なしに、状況に応じて自動で条件が変更される新システムを構築した。実験では沖縄や東京など4カ所の地点をつないで実際にデータを転送し、管理者間で調整をしなくても、自動で接続方法が変更できることを確かめた。

今後は設定変更のタイミングも、ネットワークの障害発生状況や混み具合などに応じて自動で判断できる機能を追加する。より自律的なシステムにする考えだ。